

吉敷の地域づくりを、学校、子どもと一緒にしていきましょう。

先週土曜日、吉敷地区地域づくり協議会運営委員会がありました。

この協議会は、吉敷地区の中心的な会で、地域の各団体が一同に集まり、地域活動の在り方を協議します。

この日は、中間報告が中心でした。山口市では、各地域の「地域づくり活動計画」を5年ごとに策定しており、現在、来年度からの新しい計画づくりが行われています。

会議では、各団体からこれまでの活動報告がありました。文化振興、環境づくり、交通安全、社会福祉協議会等、多くの団体で、本校と連携した活動の報告がなされました。挨拶運動、吉敷川環境学習、福祉学習、地域歴史散策、交通安全等、地域の方々と連携した多くの学習が行われています。地域の方からは、最近の子ども達の地域での挨拶の良さも話題に上がりました。

本県では、「やまぐち型地域連携教育」の推進が県教育界の最重要課題であり、そのキーワードは「学校が核となった地域づくり」です。

会議では、小学校の取組の報告の時間もあり、その中で私は、「やまぐち型地域連携教育」の求める地域連携はこれまでとは次元の違う取組であることについて話をしました。

これまでの地域連携は、学校から地域へ、授業での補助や地域教材への情報提供等についてほぼ一方的にお願いすることが中心であったと思います。

しかし、現在、本県で求められている連携は、学校教育の充実だけでなく、本県の地域の活性化に繋がり、最終的には人口増も目指していこうという取組です。

そこまで学校教育が担うのか、学校は勉強を教えるところではないのか、との声もあると思いますが、結果としてそこまで求められているのだという私たち学校側の認識が大切だと思います。その認識を持てば、日常の授業における地域連携も少しずつ内容が変わってくるのではないのでしょうか。

折しも、学習指導要領が変わります。新要領は、平成42年(2030)頃の日本を引っ張る若者を育てる教育の指針です。

教育は時代とともにその内容は変わります。「不易と流行」、「流行ばかりを追うのではなく不易も大切にしたい」とよく言われます。しかし、多くの場合、変化を求めない、変化できない者が愚痴る場合に用いられるような気がします。

本校は、来月145周年を迎える伝統校です。幕末の憲章館では、新しい日本を見据えた最先端の教育を行っていたはずです。この吉敷からも多くの志士が育ちました。伝統校は常に時代の先端を走る学校であるべきではないでしょうか。

本校も、今求められている「地域とともにある学校づくり」の重要性を認識し、学校から地域に打って出しましょう。私は、今後は地域活動の各分野で学校(中学校も含めて)とどのようなタイアップができるのかを考えてほしいと依頼しました。それを受けて、協議会会長の本校元校長の小田さんも、各部会の計画の見直しを呼びかけられました。

今後少しずつ地域からの要望も出てくるかと思いますが、それ以上に私達学校から、先を見越して、子ども達の成長のためのよりよい教育(授業・諸活動)を考え、そのための地域連携を地域に提案していきたいですね。子どもにも地域の課題解決、地域づくりに関わらせていかせましょう。

特に、中堅・若手の先生方には、新しい地域連携教育の発想・提案・行動を期待しています。校内からも地域からも、新しい提案が多すぎて調整に困るという状況こそが「みんなで創る 楽しくてたまらない 良城小学校」の姿です。

昨日、NHK大河ドラマ「直虎」が終わりました。時代が変わる時期のドラマは元気をもらいますね。先生方、ここまで大変お疲れ様でした。戌年が「次の手」にあふれる年になりますように。